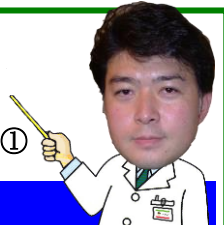


健康談話会のおさらい

直ぐそこまで来ている! 新型インフルエンザ

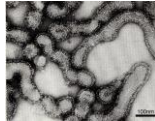
その①



① まずは通常のインフルエンザのおさらい。(普通感冒とのちがいは)

通常のインフルエンザは主に空気の乾燥した冬季に流行する呼吸器を主としたウイルス感染症です。

渡り鳥により運ばれてきたインフルエンザウイルス(主にA型・B型で、C型は属性判明せず)を吸い込むことで感染(飛沫感染)します。



A型ウイルス電顕像

急激な寒気を伴った高熱で発症し、関節痛・全身倦怠・食欲不振等の全身症状が強く通常の解熱鎮痛剤も効きにくいのですが、その多くが対症療法や抗ウイルス薬の内服等により約1週間で軽快します。

咳やのどの痛み等の上気道症状が先行しますが全身症状は軽微で、そのわりに2週間程度長引く一般の風邪(普通感冒:鼻風邪)とは対照的です。

ただしインフルエンザは普通感冒と違い抵抗力の弱い幼児や高齢者などでは脳症や重症肺炎を合併しやすく、命に係わる場合があるために、毎年予防接種が勧められているのです。

それでは、マスコミでよく取り上げられている新型インフルエンザはどうなのでしょう?

② 新型ウイルスは既に存在している!? なぜ、あんなに大騒ぎするの? パンデミック?

新型インフルエンザは、A型インフルエンザウイルスが突然変異を起こすことで誕生しますが、1995年の国際会議で発表された『早ければ数年以内に中国南部で新型ウイルスが出現する。』との予言通り、1997年5月、既に中国では新型ウイルスによる感染死亡例が確認されています。

発生機序として、人のA型インフルエンザウイルスと、鳥インフルエンザウイルスが豚の気道に同時感染を起こした際に突然変異を起こしたと考えられ、不衛生状況下で家畜と共同生活をする中国南部の農村部で発生したことは容易に理解できます。

しかしこのウイルスは新型とはいっても鳥のインフルエンザです。が、鳥から人に直接感染した最初の

もので、H5N1型ウイルスと呼ばれ、大問題となりました。5歳男子の死亡に端を発し同年末までに18名の患者が確認され、うち6名(4名が健康成人)が亡くなりました。中国政府は約150万羽にもおよぶニワトリを大量処分し、大流行を回避しました。

その後も世界中でH5N1型ウイルスによる感染・死亡例の報告が後を絶たず、平成20年6月19日時点で385名が感染、内243名が亡くなっています。(世界保健機関WHOに公式報告された人数)

この鳥インフルエンザウイルスが鳥から人へ感染するものから、人から人へ感染するものに新たに変異すればまさに未知の新型ウイルスが誕生し、世界的大流行(パンデミック)が起きてしまうのです。

(次号につづく)

鳥インフルエンザの公式発表にもとづく分布 (2003年10月以降)

